





■平成 23 年度 第三期 (9/5~9/16) インターンシップ技術講習生のつぶやき

技術講習生のプロフィール	技術講習で体験したこと、感じたこと	今後の抱負など
<p>①永淵寛子 宇都宮大学 農学部 農業環境工学科 3年</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水理模型実験、水利システムの点検</li> <li>・模型開水路の粗度係数の測定方法を自ら考え、測定精度等について分析するよう指示された。実験方法を考え仮説を立てるには、それを裏打ちする知識がなければ前に進めないことを痛感した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・些細な質問にも丁寧に回答下さり、納得いくまで教えていただきました。お陰で、この分野に関する理解がとて深まりました。研究に関わる現場や実習以外にも興味のある研究者の話聞く時間を設けていただき感謝しています。近い将来、良い報告ができるよう頑張ります。</li> </ul>
<p>②吉田賢樹 新潟大学 農学部 地域環境工学科 3年</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同上</li> <li>・様々な施設の現地調査に立会い、県によって水路の形状に違いがあったり、時代の流行で堰のタイプが変わったり、現場の違いを肌で感じる事ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学の講義で得られる表層的な知識では現場で起こっていることの本質が全く理解できないことに気づいた。もっと現場に目を向けて技術のセンス（感覚）を養っていきたい。「改革無くして成長なし」という言葉をもじれば、「感覚無くして成長なし」という心持ちです。</li> </ul>
<p>③中村慶太 日本大学 生物資源学類 環境工学コース 3年</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土質試験</li> <li>・試験内容は大学の実験の延長線のようなであったが、サンプルは震災地から採取したもので、研究の臨場感を味わうと共に、最新の機器と手作りの機器で行う試験を通じて研究現場の生の雰囲気に触れることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習で知識や技術等が得られた一方で、同じ実習生から大きな刺激を受け、自分の立ち位置を見直す動機付けが得られた。ここで得られた経験を踏まえ、より専門的な知識の修得に励み、自分を見つめ直して就活に望んでいきたいと思います。</li> </ul>
<p>④豊田泰輔 愛媛大学農学部 生物資源学科 地域環境工学コース 3年</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土質試験</li> <li>・実習内容はとても地味でとても地道な作業だったが、試験研究の背景や目的を聞き、大切な作業を分担しているという思いを強くもった。また、実用的な土質試験の開発研究は、試行錯誤の過程がとても興味深かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究者の方々や実習生と色々な話ができとても刺激になり、とても充実した時間となりました。これからの学生生活のプラス材料にしていきます。実習で関わった研究内容は、現場がとても必要と感じました。是非、良い成果につながるよう祈っています。</li> </ul>

○農村工学研究所は、皆さんが社会に巣立ってからもお付き合いしたいと願っています。